

日本の民法の編別にしがった英米契約法の実用的コース実施の試み

基礎英文契約書講座

第19回 契約法上の救済方法： 英
米法上の remedy を、日本法上の権利
実現方法と比較して、契約責任の実
現方法について比較検討する

© 2012 弁護士 渡邊明彦
All Rights Reserved

第19回目の内容

第19回目のテーマは、Remedy という概念を学ぶことにある

- **Remedies**という視点
- 英米法における**Remedies**の多様性
 - **Common Law**と**Equity**
 - 権利の実現方法はいろいろ考えられるということ

英米法における Remedies

- 日本法では、「これこれの権利・義務がある」と規定したり
- あるいは裁判を視野にいれても、「これこれの権利・義務が誰にある」というかたちで認識（判決手続の原語）すると一段落がついてしまう
- 英米法では、「確かに、権利があることは認められたが、これをどうやって具体的に実現するかも同様に重要だ」というような発想があります。

コモン・ロー

● コモン・ロー上の救済方法の特長－金銭賠償の原則

□ 歴史的経緯から、原則として、「コモン・ロー上の救済方法」は、金銭賠償

➤ コモン・ロー裁判所は、原告が勝訴した場合にも、「原告は、財物の引渡を受ける、金銭の支払いを受ける、損害の賠償を受けられる」と判断するだけで、被告に引渡し、金銭の支払い、損害の賠償を命ずることはできず、判決内容は執行官(sheriff)が、被告保有の財物を取り上げ、競売するということにより実現されていたことを示しています。

□ このような制限下では、「コモン・ロー上の救済方法」が適切な救済とならない場合があり、そのような場合には、「衡平法」上の救済が問題になるということになります。

衡平法（エクイティ）

- 日本法では、「これこれの権利・義務がある」と規定したり
- あるいは裁判を視野にいれても、「これこれの権利・義務が誰にある」というかたちで認識（判決手続の原語）すると一段落がついてしまう
- 英米法では、「確かに、権利があることは認められたが、これをどうやって具体的に実現するかも同様に重要だ」というような発想があります。

衡平法（エクイティ）（続き）

- 「衡平法は対人的にはたらく」

「衡平法は他人的にはたらく」という法諺

- 衡平法裁判所は、命令を下す人に対して刑罰の威嚇をもって、作為・不作為を命じます。したがって、衡平法上の救済方法は、このような性格を帯びることになります。

- ・ 差止命令 (injunction) 「不作為の命令」に限られないことに注意
- ・ 特定履行 (Specific Performance of Contract) 「契約の特定履行」と「契約」が付いていることに注意

- 衡平法上の救済の要件

「衡平法上の救済方法」を認めるための条件があるとされています。(i) 係争利益が「衡平法上の救済方法」を認めるに足る価値があるか、(ii) 前述の「コモン・ローの救済の不適切性」、(iii) 「衡平法上の救済方法」を認めた場合に、その履行を確保するため多大な労力を要しないこと、(iv) 相手方に過度の負担を強いないこと。

衡平法（エクイティ）（続き）

- 「衡平法の補充性」

次に知っておかなければならないのは、「衡平法」ないし「衡平法上の救済方法」は、「補充的」とであるとされる点です。この趣旨は、コモン・ローにしたがって権利の実現をはかることが原則となりますから、コモン・ロー上の救済方法である「金銭賠償」がまず考慮されることになります。次に「金銭賠償」では不適切な場合に、「衡平法上の救済方法」が考えられるという順序になるということです。

日本法等：「原則：本旨に沿った履行、

 不能の場合：損害賠償、

 代替的作為義務の場合：作為に要した費用賠償、

 非代替的作為義務の強制履行は、例外的にしか許されない

英米法における Remedies

- 日本法に比べて英米法には、多様・多彩な権利の実現方法がある
 - 契約法上の責任ではないが、例えば、アメリカの商標法(Lanham Act)では、商標権の侵害された被害者に対して、「Accounting for Profit」という救済方法を与えることができる
 - 不法行為等の損害賠償の原則では、「被った損害」の賠償を求めることになるが
 - 商標等の無体財産権の不正使用を防止するには、「被った損害」ではなく、
 - 「不正に得た利益」をはきださせるのが有効な方法になる

英米法における Remedies

- **Remedies**（救済方法、権利実現方法）という観点からみた、「効果から遡る」英文契約書の条項の整理
- void, voidable, rescind, repudiate, cancel, terminate
- 損害賠償の「損害」概念の違い
 - 「liquidate」とか「Liquidation」
 - 「解除・取消」系の用語は、要件と効果の対応を対にして標準的な枠組みで理解し、
 - 付随的、間接的損害等は、損害賠償の原則（予見可能性）との関係と、法政策的な
 - 懲罰賠償、二倍額、三倍額賠償という制度